

南アルプス市立豊小学校後期自己評価書

令和4年1月28日（金）

1 後期自己評価の経過

- (1) 後期教職員自己評価及び児童対象アンケートの実施（12月）
- (2) 自己評価及びアンケート結果を基にした職員会議及び学年会議にて状況分析と改善方策の検討（1月11日）
- (3) 学校関係者評価委員による自己評価書の検討（1月28日）

2 学校評価の分析と改善方策

〔1〕評価基準

全体傾向を把握するため、【A】【B】評価を肯定的評価とし、それらの合計が80%を超えている場合は『満足できる状態』と判断した。また、【C】【D】評価を否定的評価とし、それらの合計が20%を超えている場合は、『改善の余地がある状態』と判断した。

〔2〕全体的な傾向

教職員による自己評価をみると、前期と同様にすべて項目で【A】【B】評価の合計が90%以上の割合になっている。また、前期との評価の平均値を比較すると3項目において0.2ポイント上がっている。また、否定的評価は、1項目においてのみ【C】評価の回答があるだけであった。後期においても、全体的に比較的良好な状況にあるといえる。

児童アンケートにおいては【A】【B】の合計が80%を超えている項目は、17項目中16項目あり、その内、10項目が90%以上の肯定的評価であった。全体的には良好な結果が得られている。

前期で『改善の余地がある状態』であった2つの項目「⑩わたしは、授業中に自分の考えを伝えている。」と「⑬わたしは、本を読んでいる」では⑩が今回も肯定的評価は74%と前期と同様の結果であった。前期の結果において【C】【D】評価の割合が比較的高かった、「⑥わたしは、無言清掃をしている。」「⑧わたしは、家の人に学校のようすを話している。」「⑮わたしは、早寝早起きをしている。」についても同様の結果となった。校内研究や小中一貫教育の取組の中で、「対話を意識した学び合い」や「深い学びになるような課題や発問」について学びになるような課題や発問について研究を深め、実践を積み上げてきている。また読書活動についても、図書委員会や教師による本の読み聞かせや、おすすめの本の紹介などの取組を行ってきた。ただし、図書室の仕様に制限がかかり、休み時間自由に本に親しむことができなくなっていることが、「本を読んでいる」実感をもちにくくなっているのではないだろうか。

前期の結果において【C】【D】評価の割合が比較的高かった、「⑥わたしは、無言清掃をしている。」「⑧わたしは、家の人に学校のようすを話している。」「⑮わたしは、早寝早起きをしている。」についても改善の結果が現れていなかった。

また今回行った保護者アンケートでは、12項目のうち6項目において【A】【B】の合計が80%を超えていた。残りの6項目においては、【C】【D】評価の合計は7%以下であり『改善の余地がある状態』に当てはまらないが、この6項目については「分からない」との回答が20%前後であり、学校の様子が見えていないことが考えられる。

〔3〕結果の考察

(1) 学校経営・組織について

教職員アンケートの結果は昨年度及び前期と比較して平均値が上がっている項目が多く

みられる。児童一人一人の特性をとらえた指導を行うべく日々研鑽を積むよう努力するとともに、課題が見られたときには校長のリーダーシップのもと、全教職員が一丸となって対策に取り組んできた。

特別支援教育については、その充実を図るために特別支援教育コーディネーターを3人体制にして取り組んできた。ケース会議等、可能な限り早期に設定し、子どもの支援の在り方を追究してきた。早期対応・きめ細かな支援、全職員での共通理解を図り、組織的な対応ができるようになっていく。

前期に平均値が低かった2項目「⑥校内研に主体的に関わっている」、「⑦諸会議に積極的に参加している」については、0.2ポイント増加した。公開研究会に向けての取組や職員会議や生徒指導関連の会議において、チーム豊として全職員が「自分のこと」という意識のもと取り組んできた結果であると考えられる。

(2) 学習指導について

本校は、令和2・3年度南アルプス市教育委員会指定の「学びの質を高める授業づくり推進事業」に取り組んできた。11月の公開研究会に向け、「人間性豊かな児童の育成をめざして～深い学びの実現をめざした授業改善を通して～」を研究テーマとして、全教職員が、日々の実践を積み重ねるとともに、ブロックでの研究を深めることができた。

「豊小学校学びプラン」のもと、学習規律や学習習慣の定着に取り組むとともに、児童間の関わり合いを基盤とし、学習プロセスや言語活動を重視した授業展開によって、主体的・対話的で深い学びの実現を図り、学習指導要領で示される資質・能力の育成にも取り組んできた。

自己評価の結果では、「学習のめあてを示す」や「教材・教具（ICT機器を含む）を効果的に活用する授業を行う」などで平均値が上がった。「山梨スタンダード」の定着により、見通しをもった学習活動を進め、授業後に振り返りを行うことで学習内容を確認し定着させるという一連の学習の流れが、どの学年でも行われていくことが、自ら学びに向かう姿勢につながっていくと考える。これからも継続した取組を行うことで、自ら学ぶ力を育成できるようにしていきたい。

児童の回答を見てみると、「⑨わたしは、学校の授業がわかる。」「⑩わたしは、自分の考えをもって、他の人の話を聞いている。」が前期同様90%を上回っているが、「⑪わたしは、授業中に自分の考えを伝えている。」については74%と改善が図られていない。教職員アンケートでも「話し合い、討論・発表などの言語活動を効果的に取り入れていますか。」が【A】47%【B】53%という結果と結びついていると思われる。まん延防止等重点処置がとられたり、教育活動が制限されたりするなかでは、コロナ以前のような言語活動を取り入れることが難しい。ICT機器の効果的な活用をさらに高めるとともに、直に話すことだけでなく、ICT機器を通しての言語活動の在り方を探っていく必要がある。本校では、端末の活用方法については校内研究会において研修を行ったり、放課後に活用方法を互いに教え合ったりする土壌があるので、効果的な活用方法について、今後も継続して研修を深めていきたい。

(3) 生徒指導・生活指導について

「児童理解のためにコミュニケーションを図っている」や「諸問題の早期発見・早期対応に努めている」「特別支援教育理念を理解し、個に応じた関わりをしている」において前期より平均値が上がり、良好な結果が見られた。学級・学年経営の充実にも努め、教師と児童の信頼関係や児童相互の好ましい人間関係を育てようと日々取り組んでいる証であると考えられる。児童アンケートの結果を見ると、「学校が楽しい」「困ったことがあったら相談できる友達がいる」「困ったことがあったら相談できる先生がいる」において肯定的評価の割合は90%を超えてはいるものの、否定的評価の割合が前期より数パーセントではあ

るが増えている。2学期，秋季運動会や校外学習，6年生の修学旅行などの行事を行うことはできたが，やはり「制限」されたなかでの取組であった。しかし，「新しい生活様式」を意識しながら，できることを工夫改善し，学校生活や学校行事の在り方を探り，実践と評価を繰り返しながら教育活動の充実を図り，児童のよりよい成長につなげていきたい。

「諸問題の早期発見・早期対応に努めている」に関わっては，いじめ対策委員会を学期に1度，主任児童委員とスクールカウンセラーを交えて行っている。児童へのいじめアンケートをもとに挙げられたケースについて，担任が関わっている児童から丁寧な聞き取りを行い，事実確認と状況把握をして適切な指導を行うとともに，対策委員会でもそれぞれのケースについて確認してきた。重大事態となる事案はないが，今後も「未然防止」「早期発見」「早期解決」を重点に，誰もが気持ちよく学校生活を送ることができるよう，人間関係づくり，学級づくりに努めていくことが大切である。

携帯電話については，児童アンケートでは，「自分の携帯電話・スマートフォンを持っている。」児童は前期の38%から41%に増えている。しかし，保護者アンケートの結果は「持っている」と回答した割合は26%であった（児童が，保護者が使用しなくなった端末をWiFi環境で使用している場合や，外部とつながらない端末を使用している場合も考えられる）。ルールについては「ある」と回答した児童が約80%に対して，保護者は96%となっていて，ルールに対する認識の差があるとも考えられる。保護者アンケートのなかには，「スマホのルールはあるが守られない。」といった記述もあった。本校では，1学期には5学年が「スマホSNS出前授業」を授業参観として行った。2学期は6学年が「ほっと！ネットセミナー」と称する外部講師による授業を行った。これからも情報モラル教育に力を入れていく必要がある。

(4) 保護者・地域との連携について

今回行った保護者アンケートでは，「⑨学校は，保護者・地域住民からの声に耳を傾けていますか。」「⑮PTA活動は，保護者と教職員との協働により，子どもたちのよりよい教育活動につながっていますか。」について肯定的評価が80%を下回っている。しかしながら，否定的評価は7%以下と『改善の余地がある状態』との判断もできず，「分からない」と回答した方が20%前後であった。早朝作業や運動会への協力，4つのPTA専門部の活動などが，中止や縮小，紙面でのやり取りなどでの実施となり，実際に保護者と学校が協働する機会が少なかったからであろう。

本校で続けてきている，養蚕指導，切子指導，水泳指導，合唱指導，学習支援等においても，感染症対策を施しながら実施できたものもある。しかし，教職員アンケートでも「⑳教育活動の中に地域の人材や施設を活用し，地域の教育力を生かす指導を行っている」の平均値も前期より下がっている。

豊小学校の特色ある教育活動を行ったり，児童の安全安心を保証したりするには，地域住民や保護者の協力なしでは実現できないことがたくさんある。これまでの連携が途切れないよう配慮・準備をしておきたい。

(5) 小中一貫教育について

楡形地区小中学校で新たに盛り込んだ教職員アンケートを見ると，㉑「対話を意識した学び合いを授業に取り入れている」についての評価は，前期よりも平均値が上がってはいるが，やはり他の項目に比べ低かった。

毎週水曜日，業前活動で「あやめっこタイム（Simpleプログラム）」を仕組み，人間関係づくりを行ってきた。また，授業準備をするときには，「対話を意識した学び合い」，「深い学びになるような課題や発問の工夫」が行えるように教材研究に努めてきている。

また，児童会・生徒会活動研究部の活動として，卒業生が来校しての「あいさつ運動」や「陸上指導」，「ソフトバレーボール指導」があった。熱心に活動する中学生の姿から

子どもは中学生になったときのイメージを作ったり、尊敬やあこがれ、また中学生は郷土愛や自尊感情、自己有用感をもったりすることにつながっているであろう。また、「楕円スタンダード」の取組を児童会活動として行ってきた。「あいさつ運動」「無言でピカピカ清掃作戦」「ピタッとシューズ大作戦」などを掲げて児童会本部が中心となって取り組んできた。児童アンケートの「⑥無言清掃をしている」、「⑦げた箱のくつをそろえている」「⑭自分からあいさつをしている」の項目について、肯定的評価は80%を超えているが、前期よりも若干数値が下がっていた。2月に予定している児童総会で、児童会活動の総括を行い、来年度への課題とし、新年度の児童会活動でも継続して取り組んでいきたい。

(6) その他

意識したい大切な事柄として豊小学校の独自項目に挙げた、「⑳民主的で規律ある学級（学年・学校）集団作りを行っている。」「㉑諸表簿や文書、記録媒体を適切に管理・活用している。」については、前期よりも平均値が上がっていた。今年度「GIGAスクール構想」で児童・担任教師とも一人一台端末を使用するなかで、教師自身も情報モラルについて考える機会が増えた。また、来年度からは、教師の使用しているコンピュータに、山梨県の「校務支援」が導入される。4月からの運用に向けて準備も始まった。ハード面での情報セキュリティが上がるが、そのハードを扱う人が使用方法を間違えてしまったりはしない。準備方法や使用方法について、全職員できちんと研修を積み、4月を迎えるようにしたい。

前期でも述べたが、校内研究会の柱の一つ、「学級力向上プロジェクト」の取組についても公開研究会では途中経過を示しながら、毎学期取り組んできた。レーダーチャートが重なっていくと、学級の取組の成果のほかに行事等の取組の成果も結果となって表れることが分かった。学年が上がっても、継続して取り組んでいくことで、自分達の学級の様子を自己診断・自己評価し、自主的・実践的な仲間づくりを行うことができる集団になっていくことを期待したい。

これからも「「かしこく なかよく たくましく」を合言葉にし、「信頼と笑顔、創意工夫して未来をつくる教師」として「たくましく 心豊かな 子どもの育成」を目指し教育活動に取り組んでいきたい。